

日本新薬 (コード 4516)

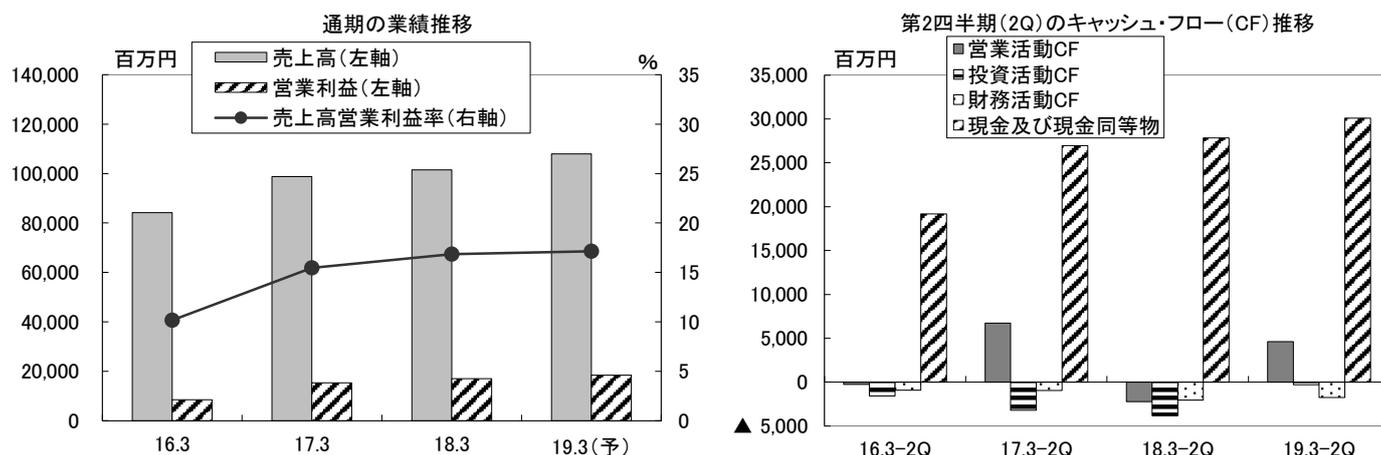
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	39,413	2,110	22.6	14.0	▲271	▲1,554	▲916	19,192
17.3	44,504	6,492	66.6	18.0	6,718	▲3,190	▲947	26,964
18.3	49,666	9,266	103.9	26.0	▲2,221	▲3,844	▲2,034	27,836
19.3	53,497	7,569	89.6	29.0	4,625	▲304	▲1,757	30,081

◆通期業績推移(連結) (19.3 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	84,209	8,549	94.1	28.0	8,915	▲3,978	▲1,907	24,748
17.3	98,781	15,280	174.4	48.0	18,916	▲5,750	▲2,193	35,914
18.3	101,448	17,079	192.3	52.0	6,719	▲11,342	▲3,787	27,510
19.3予	108,000	18,500	207.9	58.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)

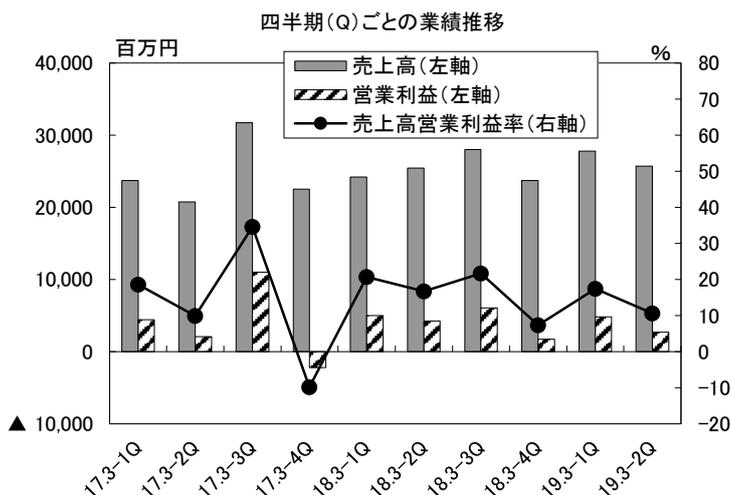


19年3月期第2四半期の業績概況…19年3月期の第2四半期累計期間(18年4~9月)の業績は、売上高534億9,700万円(前年同期比7.7%増)、営業利益75億6,900万円(同18.3%減)、経常利益81億9,600万円(同15.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益60億3,700万円(同13.7%減)となった。医薬品事業では「ウプトラビ」(自社創薬品の肺動脈性肺高血圧症治療剤)、「ザルティア」(前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤)、「シリアス」(ED治療剤)等の伸長に加え、「ウプトラビ」の海外売上に伴うロイヤリティ収入および共同販促収入等が増収に寄与。機能食品事業では、プロテイン製剤、健康食品素材の売上が増加した。利益面では、薬価改定に伴う売上原価率の上昇や臨床試験の進展に伴う研究開発費、新製品群の販売促進費等が増加し、増収に対し減益となった。1株当たりの当四半期末配当金は29円(前年同期末実績比3円増)となっている。

事業別の売上高は、医薬品事業が461億200万円(同8.0%増)、機能食品事業が73億9,400万円(同6.2%増)に、事業別のセグメント利益は、医薬品事業が71億3,300万円(同19.5%減)、機能食品事業が4億3,500万円(同9.0%増)となった。医薬品事業売上の内訳は、医薬品373億7,900万円(同6.0%増)、工業所有権等収益62億6,700万円(同13.2%増)、共同販促収入24億5,500万円(同29.9%増)に。また、機能食品事業での内訳は、プロテイン製剤49

億 4,100 万円 (同 4.9%増)、品質安定保存剤 11 億 4,000 万円 (同 1.1%増)、健康食品素材 5 億 8,500 万円 (同 35.6%増)、その他 7 億 2,600 万円 (同 5.5%増) となった。

医薬品事業における主力製品の売上高については、「ビダーザ」(骨髄異形成症候群治療剤)が前年同期比 15.0%減、「ルナベル」(月経困難症治療剤)が同 1.2%減、「エビプロスタット」(前立腺肥大症治療剤)が同 22.4%減となった一方、「ザルティア」が同 16.6%増、「トラマール」・「ワントラム」(がん疼痛・慢性疼痛治療剤)が同 9.1%増、「アドシルカ」(肺動脈性肺高血圧症治療剤)が同 12.3%増、「シアリス」が同 28.5%増、「ウプトラビ」が同 138.4%増と、好調に推移した。



キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況については、当第 2 四半期末現在の現金及び現金同等物の残高は 300 億 8,100 万円 (前年同期末比 8.1%増) となった。営業活動による CF では、税金等調整前四半期純利益が 81 億 9,600 万円 (前年同期比 15.3%減)、減価償却費が 17 億 2,800 万円 (同 32.9%増)、売上債権の増加額が 21 億 7,600 万円 (同 57.4%減)、たな卸資産の減少額が 4 億 2,800 万円 (前年同期は増加額 1 億 1,500 万円)、仕入債務の減少額が 11 億 5,000 万円 (同 3 億 8,800 万円)、法人税等の支払額が 21 億 400 万円 (前年同期比 44.1%減) となったことなどから、営業活動に伴う収入は 46 億 2,500 万円 (前年同期は 22 億 2,100 万円の支出) となった。投資活動による CF では、有価証券の取得による支出 (同 12 億円) が当四半期には無かったことや、有価証券の償還による収入が 10 億円 (前年同期比 88.7%増)、有形固定資産の取得による支出が 8 億 600 万円 (同 62.9%減) となったことなどから、投資活動に伴う支出は 3 億 400 万円 (同 92.1%減) に。財務活動による CF では、配当金の支払額が 17 億 4,900 万円 (同 13.3%減) となったことなどにより、財務活動に伴う支出は 17 億 5,700 万円 (同 13.6%減) となった。

19 年 3 月期の通期業績見通し…19 年 3 月期の通期業績については、売上高 1,080 億円 (前期比 6.5%増)、営業利益 185 億円 (同 8.3%増)、経常利益 190 億円 (同 8.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益 140 億円 (同 8.1%増) の見通しで、18 年 5 月 9 日時点での会社側予想値変更は無い。1 株当たりの年間配当金は、58 円 (前期実績比 6 円増) の予定。

事業別の売上高予想は、医薬品事業 936 億円 (前期比 7.1%増)、機能食品事業 144 億円 (同 2.6%増)。医薬品事業での内訳は、医薬品 728 億円 (同 0.4%減)、工業所有権等収益 155 億円 (同 49.4%増)、共同販促収入 53 億円 (同 33.8%増)。また、機能食品事業での内訳は、プロテイン製剤 95 億 8,500 万円 (同 1.4%増)、品質安定保存剤 24 億 5,000 万円 (同 6.6%増)、健康食品素材 9 億 6,000 万円 (同 3.5%増)、その他 14 億 500 万円 (同 4.1%増) となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。